

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。立春（今年は2月4日でした。）も過ぎ、暦の上では春を迎えました。しかし、まだまだ寒く、まさに旧文部省の唱歌「早春賦」の「春は名のみの風の強さや…」ですね。みなさんもこの歌はどこかで聞かれたこともあるのではないでしょうか。私はこの2番の「氷解け去り、葦は角ぐむ…」が大好きです。池や湖の氷が解け、水生植物の葦がツンツンと芽を出してくるということで、早春の情景を見事に詠んだ詩ですね。北国の人々は本当に春を待ち望み、フキノトウやユキワリソウが顔を出せば心が躍ると聞きます。

暦とはまた違いますが、入試でも最近テレビの影響か「俳句」を出題される傾向がありますね。特に「季語」が出題されますが、私が中学3年生の国語の実力テストで「雪渓」の季節を問われました。当時意味も分からなかったのですが、雪で「冬」はあまりにも易しく、ひっかけ問題だろう。「残雪、ゆきどけ雪解、淡雪、なだれ雪崩」など、みな春の季語なので、その類だろうと考えて、「春」としました。正解は夏。それも晩夏でした。雪渓とは高山などで谷の積雪が溶けずに残った地帯や渓谷のことです、私のときは初句などは忘ましたが、「雪渓斜めなり」という俳句だったと記憶しています。悔しかったので60年くらい経た今でも憶えています。みなさんも今のうちの失敗はどんどん失敗してもいいです、失敗を教訓に、それを糧として積み上げる努力をしましょう。

3年生のみなさんへ

入試でも「落とし穴」や「ひっかけ」問題など、ちょっといじわるな問題も出題されますが、難問は解けなくとも大丈夫です。むしろ難問はあっさり捨てて、基本問題をきっちり正解するようにしましょう。イージーミスやケアレスミスをなくすことが重要ですよ。元気アップでは、入試直前総復習をして、基本問題をもう一度ブラッシュアップをする指導をしています。是非参加してください。